
Lino先生とハーブ先生へのインタビュー記事

ポケポケパン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Linno先生とハーブ先生へのインタビュー記事

【Nコード】

N2432I

【作者名】

ポケポケパン

【あらすじ】

今回はLinno先生とハーブ先生へのインタビューをさせていただきました。

どうぞお楽しみください。

皆様お久しぶりです。初めての方ははじめまして、ポケポケパンという者です。

ただいま「小説家になろう」サイトリニューアル記念としてポケモンファンフィクション作者様方にインタビューを行っています。

今回はバクフィン先生とKaryu先生をお呼びし、今回は「ヒトカゲの旅」作者のLino先生と「メガニウムストーリー」作者のハープ先生をお呼びいたしました。

Lino先生、ハープ先生、ご協力本当に感謝しております。

今回も前回同様 Brett 方式ですが、質問を少しだけ変えてみたりしてみました。

感想でこの企画を続けてもらいたいという要望が書かれており、私はこのような形ではありますがそう言っていただけで本当にうれしかったです。すみません、私事でしたね……。それでは早速インタビューの方に行きたいと思います。

・先生はこの「小説家になろう」サイトをどうやって知りましたか？
Lino先生

「友人の紹介です。「面白いケータイ小説あるよ」と言われて、紹介されたサイトがここでした。」

ハープ先生

「たしかネットサーフィン中にたまたま見つけたんだったと思います。」

・ポケモンのファンフィクションを書こうと思ったきっかけはなんでしたか？

Lino先生

「ポケモン小説を投稿する2ヶ月前、友人の家に泊まったときに「初代ポケモンやるう」ってなって、数年ぶりにやったら凄く面白く感じたのがまず1つ。それと、ポケモンだけの世界があったらどんな世界かな？ と想像するようになって、文字におこすことにしてみたのがきっかけです。」

ハープ先生

「執筆当時は今ほど多くはなかったポケモンのファンフィクションですが、きっかけとなったのはバクフィン先生の「バクフィン達の冒険」ですね。自分もあんな作品が書きたいと思ったので執筆を始めた記憶があります。」

・Lino先生は「ヒトカゲの旅」を執筆され、完結させましたがSEの執筆はすでに最初から決まっていたのでしょうか？

Lino先生

「いえ、当初は続編を書くつもりはありませんでした。一番最初に思いついたストーリーやキャラ設定をかなり変えた結果、かなり長いストーリーになってしまいました。100話越えでもいいかなとも思いましたが、私はいいいところで一旦切って、続編という形で続きを書こうという事になりました。」

・ハープ先生は当初「メガニウムストーリー」を執筆されていましたが、どの時点でリメイク版を作ろうと思っていましたか？そしてその時に「メガニウムストーリー2」の執筆も考えていましたか？

ハープ先生

「リメイクという考えは本当はなかったのですが、Lino先生やゆきすけ先生、プラネット先生、そしてバクフィン先生が執筆した

小説を見ると自分の小説のクオリティが低いと思え、これでは駄目だということでもメイクすることにしました。2に関しては回収し忘れたフラグ回収だったりと…。」

・キャラクターを考案する時にヒントを得たもの、あるいはアイデアをもらったことはありますか？

Lino先生

「ほとんどはオリジナルですが、敢えてヒントを得たとするならば、「スレイヤーズ」です。詠唱ができたりとか、カイリユウの口調とかはこれを参考にしました。」

ハーブ先生

「このポケモンが話したらどんな感じだろう、というイメージを膨らませるために参考にしたのは「ポケモン不思議のダンジョン」です。それが反映されたことはない気がしますが。」

・ブランクの期間があったと思われませんが、その時はこういった風に切りぬけましたか？

Lino先生

「ブランク、というよりは準備期間ですね。私は数話書きためるようにしているので、前作完結から今作連載までは細かい設定を決めて執筆しつつ、期末試験の勉強に費やしました。」

ハーブ先生

「ブランクですか…？特になかった気がしますが…。」

・ポケモン小説以外でポケモングッズに関するちょっと誇示できるようなことはありますか？

Lino先生

「ないです。みんな人並みです。」

ハーブ先生

「数年前にマ○ドナルドで買ったピカチュウの大きな人形とかでし

ようかね。触ると何かしらの反応をするというものですが、未だに部屋に置いてある人はそうはいないんじゃないでしょうか。」

・ポケモンそのものにはいつ、どういったように出会いましたか？
(例：幼稚園の時にテレビで、小学生の時にゲームボーイなどで)

Lino先生

「小学生の時に、漫画やアニメで。ゲームは青からやったので、前者が先なんです。」

ハープ先生

「元はといえば兄の影響かなーと。たしかその時は幼稚園くらいだったはず。」

・同じポケモンファンフィクション作者として意識、あるいは刺激をもらった作者さんたちはいましたか？

Lino先生

「自分が勝手に三大巨匠と敬っている、バクフィンさん、ゆゑすけさん、ハープさんを意識してますね。お三方の作品は、熱いバトルやキャラ達の成長を感じさせる物語を書こうと私を感化させる、いわばバイブルです。」

ハープ先生

「バクフィン先生は勿論ですが、Lino先生やプラネット先生、ゆゑすけ先生、karyu先生ですかね。あれ、どの先生も人気の……。」

・執筆中に特に気をつけているものはありますか？

Lino先生

「地の文です。私の場合、ただ思いついたものだけ書くと作文レベルになってしまうので、そうならないよう気を付けてます。」

ハープ先生

「やり過ぎには注意しています。が、時々やり過ぎます。」

・思い入れの深い話とキャラクターを教えてください。（例：一番書くのに苦労した、一番楽しかった、いろいろと試行錯誤をしたが結局断念したプランなど）

Lino先生

「やはり前作の最終回です。トレーナーとの別れ、仲間達との再会……まとめるのがかなり大変でした。

書いてて楽しかったのはバンちゃんです。明るい部分と暗い部分の両方を書けたので。」

ハープ先生

「楽しかったのはブラキオ…ではなくルーチエ…でもなくフィルです。あの手のキャラはギャグには欠かせない存在なので、うしだと彼女は常にギャグの中心になってくれます。

話はやはりブラキオとルーチエの甘い話だったり…結局そいう話ができる辺りどうなんでしょうね。」

・好きなポケモンを五つ教えてください。

Lino先生

「バクフーン、ルギア、バンギラス、グラードン、ピチュー」

ハープ先生

「メガニウム、ボーマンダ、トリトドン、キリンリキ、シェイミです。思い入れのあるポケモンばかりなので選ぶのには苦労しますが、それは誰でも同じでしょうね。」

・先生にとってポケモンとはなんでしょう？

Lino先生

「これ以上のものはない究極の癒しです。」

ハープ先生

「うーん…相棒？初めてやったゲームはポケモンですから、思い入れがあります。」

・最後に、オーキド博士よろしくポケモン川柳を一ついただけますか？（これは任意で構いません）

Lino先生

「おいルギア そのカツコよさ 犯罪だ」

ハーブ先生

「弄られる うしだの行く末 皿の上」

以上が今回のインタビューの結果となりました。

前回同様にLino先生もハーブ先生もポケモンをこよなく愛していることがわかり、だからこそ「ヒトカゲの旅」や「メガニウムストーリー」といった素晴らしい作品が出来上がったのだと感じています。

ここからは私が個人的に感じたレビューを書かせていただきます。まだ作品を読んでいない方々がいましたらここより下は飛ばしてもらっても構いません。なるべくネタバレのないように書いています。

Lino先生の「ヒトカゲの旅」は島を巡り、ルギアを助けるべく勾玉を仲間達と共に集めていくという設定に私は惹かれるものがありました。島々を巡り、主人公のヒトカゲを通じて皆が絆で結ばれていきストーリーも一つへと繋がれる……。そして私は「ヒトカゲの旅」で絆とはなんなのか、信じることはなんなのかをもう一度考えさせられました。続編の「ヒトカゲの旅SE」も今後どう進展していくのが非常に楽しみです。

ハーブ先生の「メガニウムストーリー」はメガニウムのブラキオが光の導き手として世界を救うべくホウオウへと仲間達と共に旅をす

る物語でした。キャラ全員が特有の個性を持っていて、会話を読んでいるだけで笑いが込み上げてきたこともありました。そしてハーブさんの作品でのポケモン達の技の使い方にとっても驚かされたりしました。今は「メガニウムストーリー」のリメイク版として「メガニウムストーリープラス」を執筆されています。リメイク版ではありますが、「メガニウムストーリー」にはなかった物語が展開されとても面白いです。

Linno先生、ハーブ先生、今回は本当にありがとうございました。

お二方の作品で思ったのはLinno先生の小説にはルギアが、ハーブ先生の小説ではハウオウがキーとなっていて丁度今売られているSSとHGのことを思い浮かべたりなんかしています。

第二弾となった今回の企画・・・といっても今回から企画にしたのですがいかがでしたでしょうか？

前回のKaryu先生の小説のタイトルを間違えておりました。申し訳ございません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2432i/>

Lino先生とハーブ先生へのインタビュー記事

2010年10月14日07時06分発行